

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者様と職員が馴染みの関係になりコミュニケーションは良くとれているなかで、利用者様からの要求や希望に対応する際に、敬意や真摯さに欠ける姿勢がみられる場面がある。	「ゆっくりと、ゆったりと」ケアする職員が心忙しくない、利用者様の声に傾聴して、心の中からのメッセージに気づき、利用者様と同じ目線で気持ちの共有が出来る介護を行う。	ケア会議を含めて、接遇や認知症についての勉強会や介護の手法についての相談や話し合う機会をつくる。職員間でお互いに意見交換の出来る職場環境を整え、介護者としてのモラルの向上やスキルアップに繋げる。	12ヶ月
2	36 54	日中、利用者様が過ごされるリビングは全面太平洋が望めて開放感のある明るい環境ではあるが、どこか落ち着かない気持ちになる様子、居室のドアの上半分がガラスにより「落ち着く居場所」に工夫と配慮が必要である。	利用者様のプライバシーを保護し、利用者様の気持ちになって生活環境を整える事を考える。居心地の良さに個人差がある事を理解し、意志を尊重して対応を行う。	利用者様の「落ち着く居場所」について考える機会をつくり、1日のなかで少しでも心地良いと思える生活空間を整える工夫をする。居室にいても「見られている」という緊張感を取り除く為の設備の工夫を行う事から始め、心の居場所について考えていく。	6ヶ月
3	48	これまで出来ていた事が難しくなってきたり、出来ても時間がかかり、上手く出来なかつたりして気分が低下してしまい生活に張り合いを失くしている利用者様に対して出来ること、役にたっているという事を通して、生きている実感や喜びを感じて貰いたい。	月の海の理念でもある「共に生きる・・・」すなわち利用者様と職員が共に生活する、という本質を再度心に留め置き、一方的にお世話する介護ではなく、利用者様が日々の暮らしに喜びや希望が持てる様な生活を送って頂く為のケアを行う。	日中の過ごしている様子を細やかに観察したり、利用者様の意思に耳を傾けて、共に生活するなかで、職員と一緒に出来ることやおひとりでも出来る事を見出し、継続して生活に取り込んでいく事への方向付けを行い、再検討しながら持てる力を活かしていく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。